



西暦
1130年のノーベル賞
に相応しいのは

イブン・ハイサム カイロ

イブン・ハイサムは物理学者、工学者で、エジプトのアズハルモスクとも関係のある人物です。光学に多大な貢献をし、カメラ発明の基礎は彼に由来するとされます。最初に目全体を解剖し、そのさまざまな部位の役割を明らかにし、視覚が精神に与える数多くの効果や影響についてはじめて研究した人物で、光学の祖とみなされています。

(西暦965—1040年)

